

ある保育室の はなし

大熊米子

環境と保育

私は、今はある幼稚園の保育室である。今はと言ったわけには、私には申すもいみじき前歴がある為である。卒直に申せば、私は元兵舎であり、武運つたなくなつてからは、せめて敗残の同胞の為に、今一度の協力を！と奮起して援産場となり、三年前に、三たび化して幼稚園となつたのである。ところが、この三度目の住人が、私にぱっと愛情の眼を開かせてくれた。私を心の底からなごやかな気持してくれた。私はこれから生涯を、このかわいい住人の為に、何とかして楽しい生活の場となりたいと思つてゐる。さいわい、戦時の兵舎とて骨太に生れついて、柱も梁も頑丈そのもの、小さい芽生えの情操の為に、多少お化粧に気をつけねば、安全な家となれる自信はじゅうぶんある。まず子どもたちが私のふところに入つて來た時、何が特別美しいと思わないでもよい、どこがとりわけ便利だと思わないでもよい。否むしろ、特別にどこが、何がとい

うのでないこの方が望ましい。さりげなく人々の意識の前にあつて、そこはかとない楽しい雰囲気、快よい環境、ゆき届いた上で何氣ない設備……誠に舌足らずな表現で恐縮だが、私はそういう保育室になりたいと努力している。既存のものに創意工夫を加えて、理想と妥協し、しかも幼いものには最高度のものを与えたい、工夫また樂しからずやである。

私は頑丈ではあるが武骨であるし、味もそつけもない建物である。兵隊さんとのおつきあいとは違つて、子どもにアッピールする近道は、まず視聴覚に、というわけで、子どもが安定感を感じる色と言われているクリーム色、淡いピンクなどを基調としてお化粧した。これで、玄関にある、木曾の山奥の旧家にでもありそうないかめしい角柱も、慈愛深く頼もしいお母さんのような感じで子どもがまつわってくれることになった。また壁であるが、元来うなぎの寝床のような長細い建物を、適当の広さに分けるのだが、ベニヤ板の壁に、画鋲などふんだんに使つては、いくら塗料でお化粧しても、大病の後の注射の痕のようで傷ましい。ここにはざくざくした麻布を張りたい。お米やお砂糖を入れる袋の、あれである。あんな汚い色のようで、なかなかよい味わいをかもし出す。そしてここには、よい絵をよい額に入れて掲げたい。その絵を見れば、子どもが心から安らぎを覚え、ああ自分の部屋だと感じるようになら……あまりしばしがけかえない方がよい。片面の壁は広いグリーンボールド。涯しない海を夢みたり、広いひろい野原を思つた子どもが、自由に大きな絵が描けるようにしておく、鴨居から上と、天井は吸音テック

スなどで落着いた感じを出し、余分な音は吸込んでもらう仕組だ。また雨などで暗い日の為に照明も忘れてはならない。机、椅子、児童用ロッカー、道具入れの抽出し類、皆色調を整える。一つ一つがしばらく目に飛込んで来る煩わしさから、子どもたちをかばいたいからだ。それから、机や椅子の角は必ず丸くして、抽出しの把手の金属など、突出したものは使わない。安全であることが、何より安定感の基礎となる。部屋を彩る花が、みごとなばらや、カーネーションでなくとも、子どもが摘んで来たたんぽぽの数茎の方が親しみがある。あまり整然とした部屋のたずまいも取りつきにくい。朝来てすぐ本を見る子の為には、新刊の本が本立てからわざと抜き出してあり、昨日の続きの製作をしようと勢込んで来る子の為には、糊も紙もすぐ使えるようにしてある。じゅうぶん意図された気易さである。おや、窓から吹込むそよかぜに、小さい子どもや花が踊っていると見えるのは……カーテンの裾に子どもたちが、自分の服の残り布で切り抜いた子どもや花を、先生がアクリケしたものだ。子どもの手で飾つてもらつて、私はどんなにうれしかったことか……子どもにもデザインをする隙間を与えて。私は子どもたちにとって、たっぷりと余裕ある生活の場でありたいのだ。目を奪うすばらしさはなくとも、温かく包んでくれる懐しさがある……そんな感じが子どもの視覚から体内へ、更に心の奥底へ、ひたひたとしみ込んで行く。

さて聴覚に聞いてみよう。ガタガタコトリキキッ……これは机や椅子の脚が、子どもたちの身動きにつれて起る。小さいが、量としては案外多い雜音騒音である。初め、私の床には絨氈が敷きつめら

れようとした。ところが、水が流れることもあり、お弁当がこぼれたり、粘土が落ちたり……ということで、床を良質のコルクにして、机や椅子の足にゴムの小靴をはかせることにした。聞いてよい音楽おはなしは、なるべく聞かせるがよいが、聞かなくてもすむ雑音からは解放してやらねば神経がかわいそうというものだ。ところで机や椅子を子どもが扱い易いということだけに重点をおいて、やたらと軽く小さくこしらえることは動き易くなり、したがって音をたて易くなることを発見した。やはり扱える限度までの重さ、大きさに作らねばならない。次に、積極面で、聞かせたい、音楽やなまし声などの大きさや音質は、子どもが平らかな気持を持つ上に一番大切なことであるが、これは先生の御指導という領分に属する。ただ私としては、聞きよい場所にラジオを備え、また子どもたちが、濫用されざる自由で、レコードを聞いたり、ピアノを弾いたり出来る雰囲気にしたいと望んでいる。ムード保育室、こんな表現があるかしら？

さてもう一つ、保育室分室のはなし、この建物には、廊は室内の陽当たりを考えてほとんど無いがその代り雨の日や夏の強い陽差しを防ぐ為に、店屋さんが軒端につける巻上げの廊のれんを付ける。窓下の砂場はこのれんのお陰で年中無休の大繁盛となる。そしてこの南側の庭は……いや保育室分室のゆかはふかぶかとした緑一色、粘土お弁当すもうにままで……に、利用価値はすばらしい。芝生？ 否、戦時中石炭がらなど撒き固めた土地に芝は駄目、牧草！ 牧草の種をおろすのである。……今にね……ある保育室の夢物語りをこれで終る。